

## 放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表：令和 2年 3月 1日

事業所名 ラディアントステップ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		物を片付け、床面積を広く確保するようにしている	定員10名の活動スペースとして適切な広さを確保出来ていると考えています。さらに学習室の有効的な活用について工夫していきたい
	2	職員の配置数は適切である	○		10名の利用児に対して通常4名の支援員を配置	10人の利用児に対して支援員数は適切である。外出時等は特に気を配り支援に当たっている
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○		配慮が必要な利用児の把握を行う	玄関先に階段がある。送迎車への乗り降りには、細心の注意を払っている
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		支援員間で利用児に対する対応について情報を共有している	毎日の療育ミーティング等において、支援方法について情報を共有し、対応を統一して支援に当たっている。全員で評価を行い上手い/かかない場合は、再検討を行っている
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		年1回、保護者アンケートを行い、結果をもとに業務改善に役立てている	アンケート結果を真摯に受け止め、改善に繋げている。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		自己評価アンケート、保護者アンケートを年度末にHP上にて公開	自己評価結果、保護者評価結果を毎年年度末にHP上にて公表している。またアンケートの回収率100%を目指している
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○	社内において他施設の職員による評価、アドバイスを行っている	第三者による評価は実施していないため引き続き検討していきたい。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		外部研修、社内研修を積極的に行っている	今後も積極的に外部で行われる研修に参加し、社内にて伝え合う機会を持ち、社内研修に活かして行きたい
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		契約時のアセスメントを丁寧に行い計画の作成に役立てている	アセスメントを丁寧にを行い、これから取り組む問題点について支援員間で情報を共有し計画書の作成に当たっています
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		昨年度より児発管会議において独自のアセスメントツールを作成した	昨年作成した新しいアセスメントツールによりアセスメントを行っている。今後も改良を進めより良い物としていきたい
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		支援員全員が立案に携わっている	今後も、療育の観点から、より良い活動内容を立案していきたい
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		活動がマンネリ化しない様工夫している	同じ内容の活動であっても内容に変化を持たせ、全く同じとまらない様に工夫を行っている
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		平日と休日で活動内容を工夫している	平日は、運動、学習、生活支援の3本柱で構成し、休日は時間の長さを活かした活動(外出・食育・音楽療法)に力を入れている
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		集団活動と個別活動を上手く組み合わせ支援している	基本的に療育は集団活動であるが、取り組みの内容やレベルは個人に合わせて設定し、集団活動においても個別の目標を達成出来る様、支援を行っている。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		毎日療育ミーティングを行い、役割を分担している	療育内容を一つのツールとして位置付け、その活動の中で、個に注目して支援出来るかを話し合い、より良い療育活動に繋げている
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		送迎終了後、1日の反省点について話し合いを持つ	送迎終了後、その日の出来事を振り返る時間を持つ様にしている
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		連絡帳と療育日誌において記録を残している	連絡帳は、出来る限りその日の利用児の様子が分かる者が記入している。活動への取り組み、精神状態、普段と違う所等について詳しく記せるように工夫している
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		定期的にモニタリングを行い、計画の見直しを行っている	定期的なモニタリング以外においても、支援相談員と密に連携し利用児の問題点や取り組みについて連携を取る様になっている。将来を見据えた計画の作成を行っている
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	○		利用児の成長、自立を目指した支援を行っている	ガイドライン総則の基本活動を常に意識して活動計画を作成している

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		基本的に児童発達支援管理責任者が参加している	基本的に児童発達支援管理責任者が参加している。担会の日程が決まり次第、事前に支援員間で意見交換を行い、偏りのない評価が出来る様に工夫している
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		主に学校への送迎時に、利用児の学校での様子や取り組みについて担任の先生から情報を提供して頂いている	各学校の年間計画を4月に収集し、土曜授業や、行事、振替休日について把握を行い、改めて確認を行っている。また下校時間は親御さんより情報を得ている。利用のキャンセル並びに追加利用の連絡は電話及びFAXにて必ず学校へ連絡を入れ、親御さんと相違ない様にしている
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○		現在医療的ケアを必要とする利用児は居ない	現在医療的ケアを必要とする利用児は居ないが、風邪薬等の服薬については、親御さんと十分に情報交換を行い、適切に服薬出来る様にしている
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		スマイルブック(大垣)や就学前の記録の提出をお願いしている	今後も親御さんのご理解のもと、利用児をより良く知るという観点から適切に利用させて頂きたい
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○		弊社の生活介護「スケッチ」と連携を密にし、情報提供を心掛けている	現在、当施設から高等部を卒業する生徒の多くが弊社生活介護「スケッチ」を利用されている。生活介護スケッチの利用にあたり個々に伝えなければならないことを正確に伝えられるよう意識している。今後他施設を利用する場合でも同様に情報を提供していきたい
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		児童発達支援センター等の専門機関が行う研修会等にできる限り参加している	児童発達支援センター等の専門機関や大垣市障がい福祉課が主催する様々な研修会に積極的に参加するよう心がけている。こうした研修の機会に個人的にアドバイスを求めることも意識していきたい
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○		障害のない子どもとの交流、活動ができないか職員間でよく話し合っている	保護者アンケートでも「そういう機会は少ない」と出ていた。これまで意図的にそういう活動を行ったことはない。今後小学校の通常学級との交流を考えている
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○		自立支援協議会参加の案内をいただいたときには必ず参加している	今後も積極的にこうした会に参加したいと考えている
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		自宅への送迎の際、子どもの姿を伝え合い共通理解を図っている	連絡帳でその日の利用者さんの様子をていねいに伝え、同時に送迎時、頑張った姿や課題と思われる姿を言葉で伝えることで子どもの姿や療育について共通理解を図っていきたい
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○		保護者会の時、講師を招き障害や子育てという視点からお話をしてもらっている	保護者会などの特別な会以外でも、子育てや障がいについて保護者に対して積極的にアドバイスをしていきたい。また保護者に的確なアドバイスができるよう研修を重ねたい	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約の際、十分時間をかけて説明している	報酬改定等により利用者負担額に変更がある場合には、その都度丁寧に説明していきたい。また、施設の運営規程の変更なども必要に応じて丁寧に説明していきたい
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		保護者の悩み等の相談にはできる限りの対応を行っている	いろいろな相談に対し、我々が持つ専門的な知識・経験や、職員自身の子育ての経験をもとに、保護者に寄り添い助言やアドバイスを続けていきたい
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		年に1回ラディアント放課後デイ4施設合同で保護者会を開催している	毎年1回保護者会を実施しています。今後も参加者にとって有意義な会となる様、検討し改善していきたい
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		苦情等があった時には、その情報を全職員に伝え対応について考えることを徹底している	どんな苦情もすぐに全職員にオープンにすること。そして全職員で対応について検討し、迅速に動くこと。謝罪等が必要な場合、少しでも早く謝罪に向き誠意をもって謝罪すること。事後の報告をすること。これらを今後も徹底していきたい
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		毎月各事業所の新聞を配布している。日々の活動の様子をブログにアップしている	毎月1回発行の新聞、HP上の活動ブログ、これを今後も継続していきたい。また、その内容もさらに充実させていきたい
	35	個人情報に十分注意している	○		個人情報の取り扱いには十分注意している	今後も個人情報の管理に細心の注意を払っていききたい
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		毎日の連絡帳ではわかりやすい表現で伝えるよう意識している	毎日の連絡帳ではわかりやすい表現で伝えるよう意識している
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		当事業所においては、行っていないのが現状	積極的な交流は、行っていないが、ご近所には、ここが障がい福祉施設である事の理解を得ており、あいさつなどを交わしている。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○	全ての対応マニュアルを整えている	全ての対応マニュアルを整えているが、保護者に対して周知という点ではまだ徹底できていない。新聞・HPを利用し利用者、保護者への周知に力を入れていきたい
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○	年に2回地震火災避難訓練と水難避難訓練を実施している	今後も年に2回の避難訓練を実施していきたい。形だけに終わらないよう子どもたちにも意味を理解させ真剣な態度で行わせたい
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○	全職員対象の虐待防止研修会を実施している	今後も社員研修として社内の虐待防止研修会やアンガーマネジメントを実施していきたい。県主催の研修など社外での研修にも積極的に参加していきたい
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○	現在その対象となるような利用者はいない	今後やむを得ず身体拘束が必要になる場合には、きちんと手順を踏み、さらに日々の様子をきちんと保護者に伝えることを意識して進めていきたい
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○	アセスメントで食物アレルギーについて確認している	現在、食物アレルギーについてきちんと確認できるよう確認の仕方について再検討している。きちんと確認し、療育・食育に生かしていきたい
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○	ヒヤリハット、事故報告書を作成し共有している	ヒヤリハット報告書、事故報告書を作成し事業所内で常に話題にし共有している。同時に管理職に報告している。今後もこの形を継続していく